

沖縄における劇場・映画館の変遷

大嶺可代

1. 戦前の劇場・映画館

- 仲毛（ナカモー）、思案橋（シアンバシ）
[いずれも現在の那覇港付近]、啓聖廟
[現在の商工会議所付近] に芝居小屋
- 辻端道に本演芸場（後の「下の芝居」 沖縄座）、
新演芸場（「上の芝居」 壬辰座）
- 首里演芸場（寒水川芝居 スンガーシバイ）
- 久場川演芸場
- 球陽座、中座、明治座、朝日座
- 帝国館、平和館、旭館、新天地劇場（珊瑚座）、大正劇場
- 名護旭館、泡瀬旭館、歌舞伎座→八重山館、
新世界（宮古）

戦前の劇場・映画館



寒川芝居跡地 観音堂近く

戦前の劇場・映画館



久場川芝居演技場跡 さーたーあんだぎーの店安室

2. 戦後(米軍統治下～復帰)の劇場、映画館

- 沖縄芸能連盟→「松」「竹」「梅」劇団
- 1947年4月から劇団自由興業
- 1946年1月から巡回映画、1948年からアーニーパイル国際劇場で映画上映開始

宮古・八重山では既に映画上映

密輸フィルムの存在(先島、奄美)

- 1959年度版『沖縄年鑑』
映画常設館92館、演劇場12館、米軍専用映画館19館
- 1959年11月～沖縄テレビ、1960年6月～琉球放送がテレビ放送を開始。

演劇界、映画界の衰退へ

- 1965年、沖映本館が劇場へ移行



大嶺 可代

父に中央劇場の跡地へ行った話をした。

父：あそこは小学校56年のとき行ったさ、屋根がないけど映画は上映するんだよな、みんなカッパ着たり傘差しながら観るんだけど後ろから「スクリーン見えない！傘どける」っていわれるんだよ。

私：どんなやって入ったの？ヌギバイ？

父：那覇ではそんなことしない。川田（具志川）ではやったけど。中央劇場みたいに傾斜のある広場に鉄線で囲いしているわけさ。そしたら上手な人がいて、鉄線をペンチで切るからそこから入るわけ。

私：（焦りながら）で、なんで那覇ではヌギバイしなかったの？

父：だって中央劇場の息子も平和館の息子も同級生だからね。

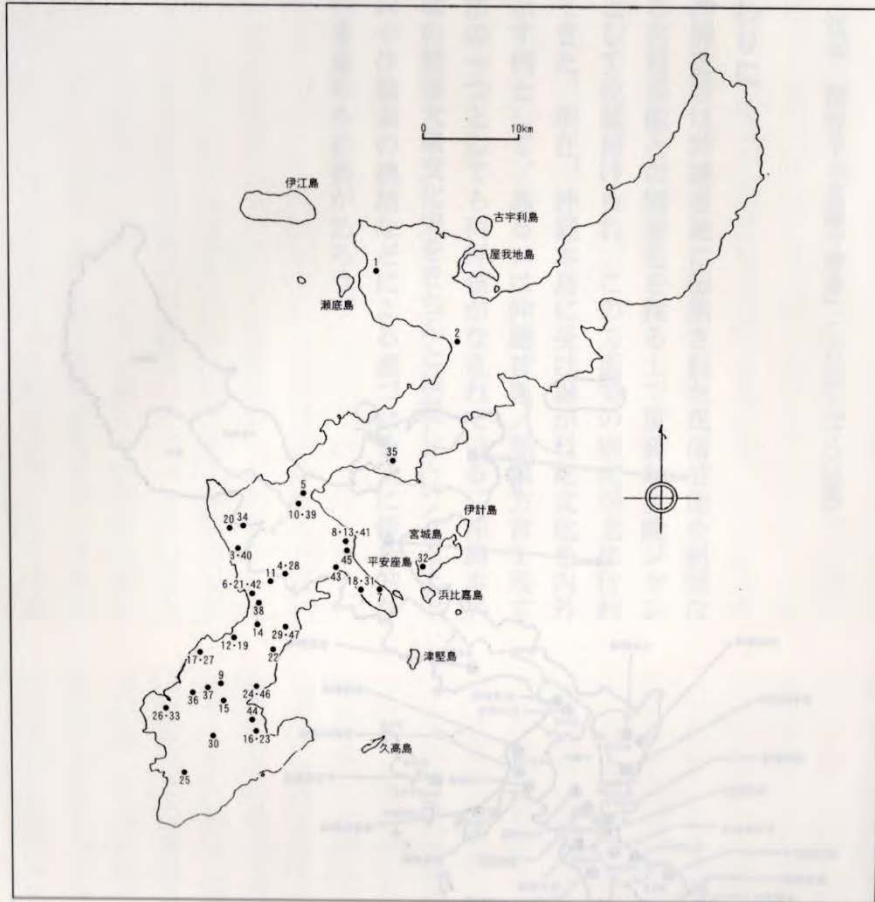
私：.....。

写真は日曜日の那覇まちまーいの一コマ。當間さん平良さんお疲れ様でした。

2017年10月
那覇まちまーい

「戦後沖縄本島地域における
 沖縄芝居の活動状況について
 ——乙姫劇団を中心に——」
 『沖縄藝能史研究 9号』大嶺

乙姫劇団活動（巡業）図 1950年



- | | | | | |
|-------------|----------|--------------|-----------|----------|
| 1 本部劇場 | 11 園田劇場 | 21 桃原劇場 | 31 勝連劇場 | 41 田場劇場 |
| 2 名護劇場 | 12 大山劇場 | 22 中城劇場 | 32 平安座劇場 | 42 桃原劇場 |
| 3 嘉手納劇場 | 13 田場劇場 | 23 馬天劇場 | 33 小祿劇場 | 43 川田劇場 |
| 4 コザ(嘉間良)劇場 | 14 普天間劇場 | 24 兼久劇場 | 34 大木劇場 | 44 与那原劇場 |
| 5 美浦劇場 | 15 兼城劇場* | 25 糸満劇場 | 35 金武劇場 | 45 金武湾劇場 |
| 6 桃原劇場 | 16 馬天劇場 | 26 小祿劇場 | 36 那覇国際劇場 | 46 兼久劇場 |
| 7 屋慶名劇場 | 17 浦添劇場 | 27 浦添劇場 | 37 沖縄劇場 | 47 熱田劇場 |
| 8 田場劇場 | 18 勝連劇場 | 28 コザ(嘉間良)劇場 | 38 謝苜劇場 | |
| 9 首里劇場 | 19 大山劇場 | 29 熱田劇場 | 39 石川劇場 | |
| 10 石川劇場 | 20 読谷劇場 | 30 東風平劇場 | 40 嘉手納劇場 | |

*兼城劇場については未だ場所を確認できない。この地図では南風原町字兼城としているが、現地調査を行っても劇場があったという証言は得られなかった。糸満市字兼城について糸満市立図書館の金城善氏に問い合わせたが、そういった報告は寄せられていないという。

糸満兼城に
 戦前路面電車の
 駅がありました。

ひょっとすると
 糸満兼城に
 劇場が存在した
 かも？

電話帳から戦後の劇場、映画館を追う



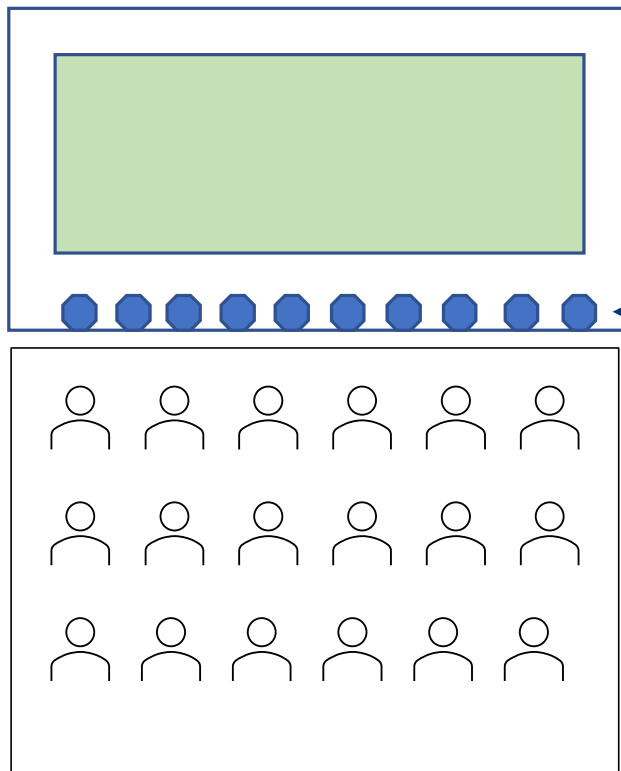
「戦後沖縄本島地域における
 沖縄芝居の活動状況について
 ——乙姫劇団を中心に——」
 『沖縄藝能史研究 9号』大嶺

乙姫劇団活動（巡業）図 1960年



- | | | |
|-------------|--------------|-----------|
| 1 那覇劇場 | 11 安謝岡野劇場 | 21 安謝岡野劇場 |
| 2 新世界館 | 12 本部劇場 | 22 新世界館 |
| 3 石川劇場 | 13 コザ（嘉間良）劇場 | |
| 4 パラダイス劇場 | 14 小禄劇場 | |
| 5 安謝岡野劇場 | 15 那覇劇場 | |
| 6 コザ（嘉間良）劇場 | 16 パラダイス劇場 | |
| 7 那覇劇場 | 17 平良川劇場 | |
| 8 平良川劇場 | 18 石川劇場 | |
| 9 糸満劇場 | 19 あげぼの劇場 | |
| 10 パラダイス劇場 | 20 コザ（嘉間良）劇場 | |

映画館と劇団員たち



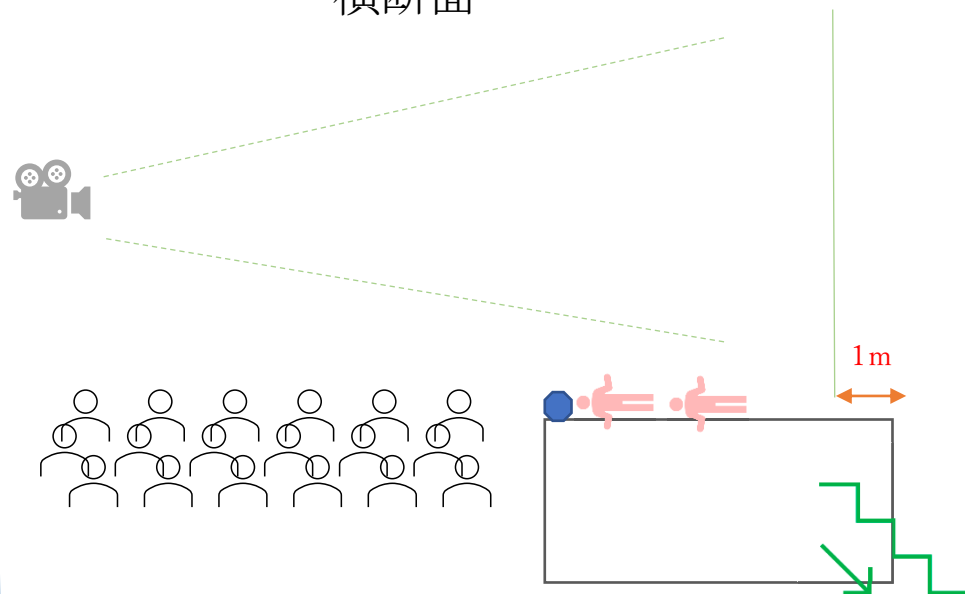
照明 

さて問題です。
あけぼの劇場で
映画が上映中ですが、
ここに夜興行予定の乙姫劇団
の団員達があります。

どこにいるのでしょうか？

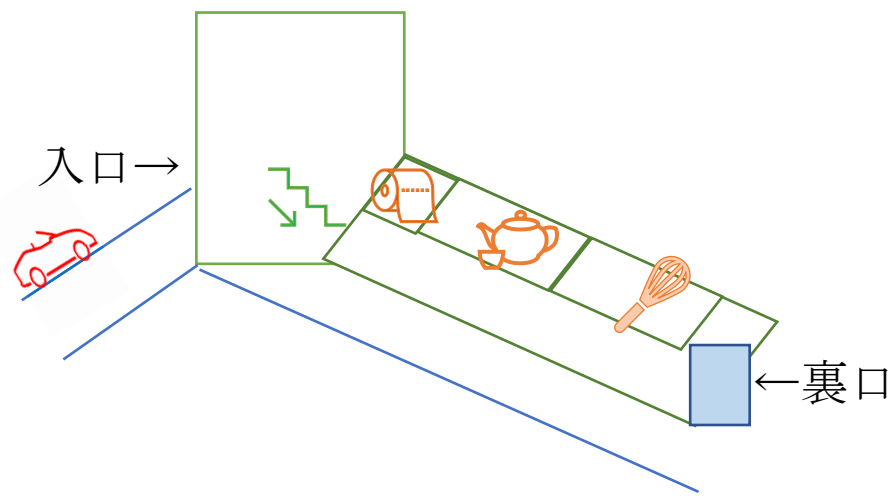
映画館と劇団員たち

横断面



芝居を打つ劇団員たちは昼間はスクリーンの前で寝ていました。お客さん達が映画を楽しんでいるので、舞台裏の階下にあるトイレに行きたい時は、舞台の端っこまで転がって上映中のスクリーンの裏側へ回り、そこを歩いて階段を降りてトイレへ行きました。

あけぼの劇場は坂道に沿って建てられていたため、劇場正面は広がったのですが、奥行き部分が狭く楽屋がありませんでした。



電話帳から戦後の劇場、映画館を追う

共同電話回線

電話回線数が限定的であった時代に、「共同電話」という複数加入者で共同利用する電話回線。

簡易式（電鈴による個別呼び出しが出来ない、他の加入者の通話そのまま聞こえるもの）の共同電話で加入者側に手動回線転換器が

無いもの	A-type	甲種
有るもの	B-type	乙種

電話帳から戦後の劇場、映画館を追う





八重山沖映館跡



千歳館跡

千歳座。1925 (T14) 年にできた。
渡嘉敷守良、子役に大宜見小太郎
がいた。(山城興常氏)
木造二階建てで瓦葺き。床にむしろ
敷きだったが後にベンチになった。
沖縄芝居の翁長、大宜味などが記
憶にある。収穫時期には毎日満員を
記録した。400人くらい入ったかも知
れない。(森田孫栄氏)

丸映館

戦後は洋画専門。サーカスが来ていた。（1965年頃）ライオンと戦ったシーン。テンカツさん：コップを割ってその上で寝る、火の棒を回す、サーター天ぷらを揚げ物鍋から手づかみして観客に投げる、etc. 全日本プロレスも来ていた。ジャイアント馬場??（波照間永吉氏）

(丸具商店の金城カナさん)

丸具商店の隣「摩天楼」五階建てだった。
一階が映画館で邦画を上映していた。二階
から五階までお店が入っていた。風が強く当
たり、かき氷が溶けるほどだった。
ここは大嶺政寛氏のお気に入りのお店で、毎
年来てはここから赤瓦の町並みを眺めていた。



八重山国際館跡

電話帳から戦後の劇場、映画館を追う



大勝劇場 石垣市字登野城
飯田マハツさん（左端）は周囲から
フダウヤーオバサンと呼ばれていた

- 戦前からあった劇場
- みつわ座、ときわ座、大伸座、劇団与座、翁長座、天川劇団などが興業を行い遠く白保、大浜、新川からもバスで客が詰めかけた
- 板敷きでゴザを敷き詰め座布団があった。100～200名入った
- 飯田さんはもぎりの他、劇場内で売店も取り扱った。丸具商店のサンコーラなどを売った
- 売った札は最終的に劇場主の富川氏が計算していた。富川氏は目が不自由だがとても頭のよい方であった。決してごまかしはきかなかった
(堀文子さんの証言)

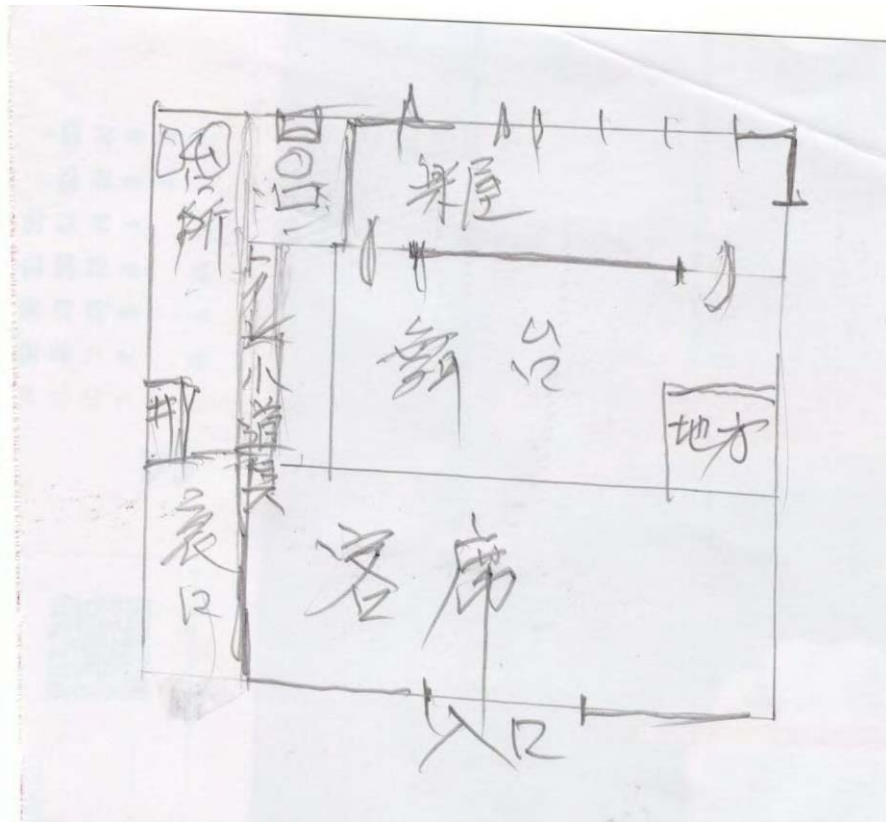
「戦後沖縄本島地域における
 沖縄芝居の活動状況について
 ——乙姫劇団を中心に——」
 『沖縄藝能史研究 9号』大嶺

乙姫劇団活動（巡業）図 1970年



- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1 コザ自由劇場 | 3 あげぼの劇場 | 5 あげぼの劇場 |
| 2 琉球新報ホール | 4 ベリー劇場 | 6 コザ自由劇場 |

電話帳に掲載されていない劇場



「電話の置いてある劇場はむしろ珍しかった。コザ自由劇場なんて劇場主の潮平さんが芝居好きなお母さんのために作っただけのハコだから、そもそも電話なんて必要なかったしね。

だいたい地方の劇場なんて、劇団がいつ頃来るかってのもテーゲーに決めていたし、あらかじめ決めていた日に劇団が来なかったら、台風とかで来ないんだはずとしか思わない。連絡も取らないで1ヶ月くらいは来るのを待っているわけさー」

(元乙姫劇団員 森多賀子・談)

電話帳から戦後の劇場、映画館を追う





3. 1980～1990年代の劇場、映画館

- 1980年沖映本館が閉館
- 1980年2月沖縄ジャンジャンが開場（～1993年11月）
 - 県内の芸術芸能活動を幅広く支える
 - 県外、国外からも広くアーティストが来沖

沖縄芝居のでいご座などは母の日と敬老の日は大規模な市民会館で、通常は各地のスーパーや公民館、老人ホーム、農協ホール、レストラン、ホテルの宴会場、福祉センター、学校の体育館などで公演

- 1990年 沖縄コンベンションセンター落成
- 1990年 県立郷土劇場開場
 - 「県民劇場」「かりゆし芸能公演」
 - 組踊の稽古場を設置
- 1991年 パレット市民劇場、シネマパレット誕生
- 1995年 具志川にうるま市芸術劇場開場
- 1996年 音楽専用ホール シュガーホール開場
- 1997年 ミハマセブンプレックス誕生
- 1998年 沖縄市に小劇場あしびなー開場

沖縄県主催

第80回

県民劇場

劇団ときわ座公演

沖縄芝居の面白さを集めて贈る絢爛の花舞台!

と き：平成8年8月17日(土) 昼一 午後2時より
8月18日(日) 昼・夜二回 午後2時と午後6時30分より
と ころ：県立御土劇場(東町会館2F)

●時代歌劇 **新むんじゆるー** 脚本 真喜志 康忠
演出 仲 嶺 真永

●現代劇 **心の綻び** 脚本 真喜志 康忠
演出 真喜志 康忠

出演者



真喜志康忠



玉木 伸



仲嶺真永

- 神谷 義武
- 内間 真光
- 山川 宗春
- 幸地 良弘
- 瑞慶山 和子

- 金城 清
- 朝原 貞一郎
- 末吉 正弘
- 中村 輝雄(音楽)
- 大城 昭江



兼城道子
(特別出演)



森田豊一



花城光子



真喜志好子



兼城道子
(特別出演)



仲嶺伸吾



花城ひろ子



真喜志好子

●お問い合わせ
TEL867-5170
(ときわ座事務局)

・前売券 2,500円
・当日券 3,000円

(五名様より団体割引! チケット郵送も致します。)

パレットくもじ・リウボウ・沖縄三越・山形屋
各ブレイガイドにて発売中!

3. 2000年代以降の劇場、映画館

- 2003年 宜野座村文化センター（がらまんホール）開設
- 2004年1月 国立劇場おきなわ開館
- 2004年11月 那覇市文化テンプス館開館
 - 木曜芸能公演
- 2005年 桜坂劇場 開場
 - 古書店、ギャラリーを併設
 - 桜坂大学などのイベント開催
- 2005年 シネマパニック宮古島開館
- 2015年 シアタードーナツ開場
- 2018年 ゆいロードシアター開場
- 2019年 シネマプラザハウス1954開場
- 2021年 首里劇場が名画座として再スタート

宮古国映館
よしもと南の島パニパニシネマ

丸映館

ご清聴ありがとうございました